



外傷サーベイランス委員会



報告者 委員長 寺西 寧



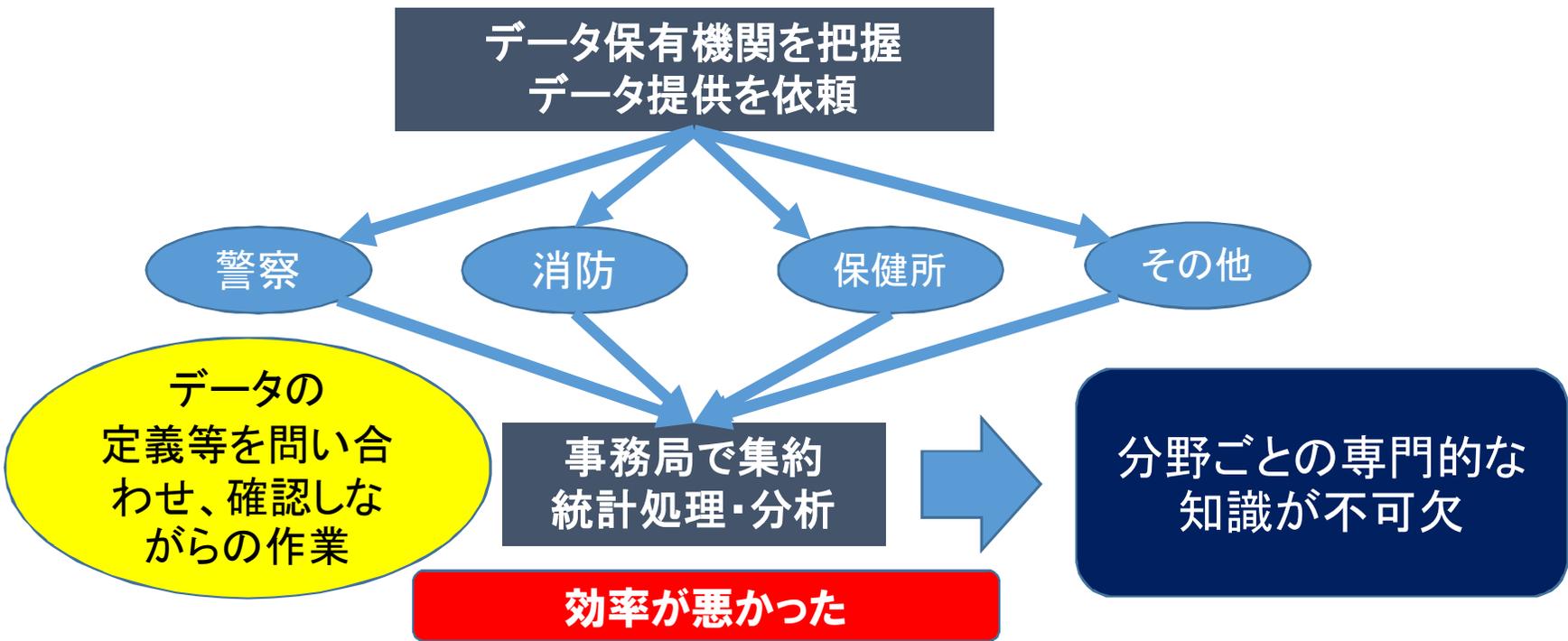
1 外傷サーベイランス委員会の必要性

必要性① データ収集と分析を効率的に実施するため

郡山市のけがや事故の実情を把握する地域診断2014年は、事務局(市のセーフコミュニティ推進室)が実施したが作業効率が悪かった。

事務局だけでデータ収集、分析を実施
(市のセーフコミュニティ推進室)

図1





必要性② 継続したデータ収集、分析を行うため

指標1 さまざまな部門・分野の人たちが連携・協力し合う仕組みを整え、まちぐるみで取り組むこと

指標2 すべての年齢・性別・環境や状況を対象として、長期的・継続的に取り組むこと

指標3 見守りや手助けが必要な人、被害を受けやすい立場の人・環境・状況にも有効な取り組みをしていること

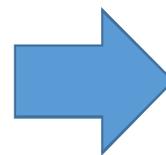
指標4 根拠に基づいた取り組みをしていること

指標5 事故やけがを記録する仕組みがあること

指標6 取組み及び効果・影響を評価するための評価基準があること

指標7 国内外のセーフコミュニティ間の情報交換や交流の場に継続的に参加していること

指標4から6を継続的にかつ
効率的に実施するためには事
務局だけでは不足



**外傷サーベイランス
委員会設置**

セーフコミュニティ推進協議会決
定(2015年5月)



2 外傷サーベイランス委員会の役割

役割1 けがや事故のデータ収集及び分析(指標4、指標5)

- 発生件数等のデータ収集と継続可能な体制整備
- 全国、福島県、郡山市の比較
- 年代間での比較、地域間での比較 等

役割2 セーフコミュニティ活動の検証(指標4、指標6)

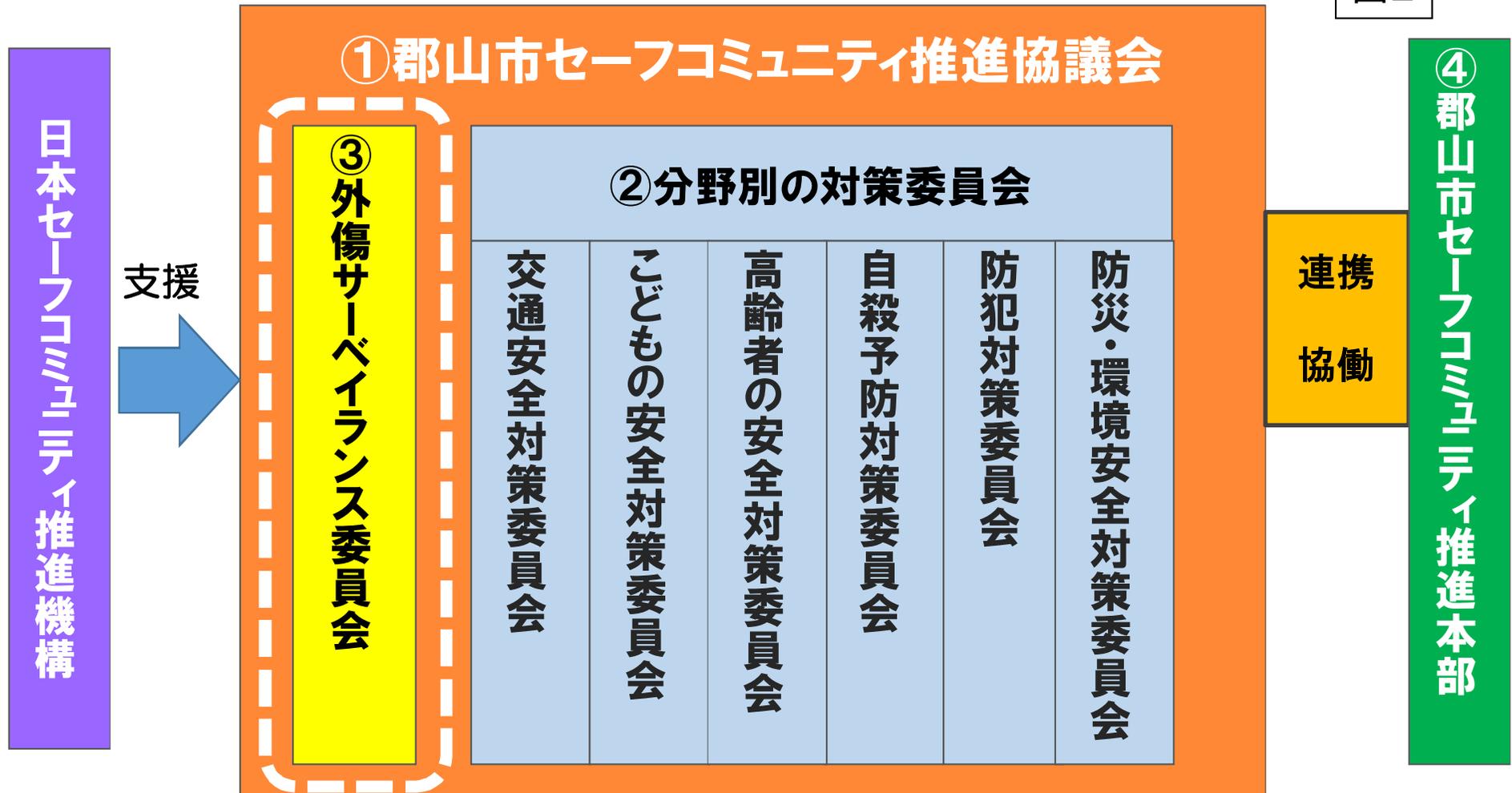
- 活動の根拠となるデータは適正か？
- 活動の効果測定方法は適正か？
- 指標の設定は適正か？ 等

役割3 データに基づくセーフコミュニティ活動への助言 (指標4、指標6)

- 推進協議会、対策委員会に助言を行う。

2015年5月に外傷サーベイランス委員会設置

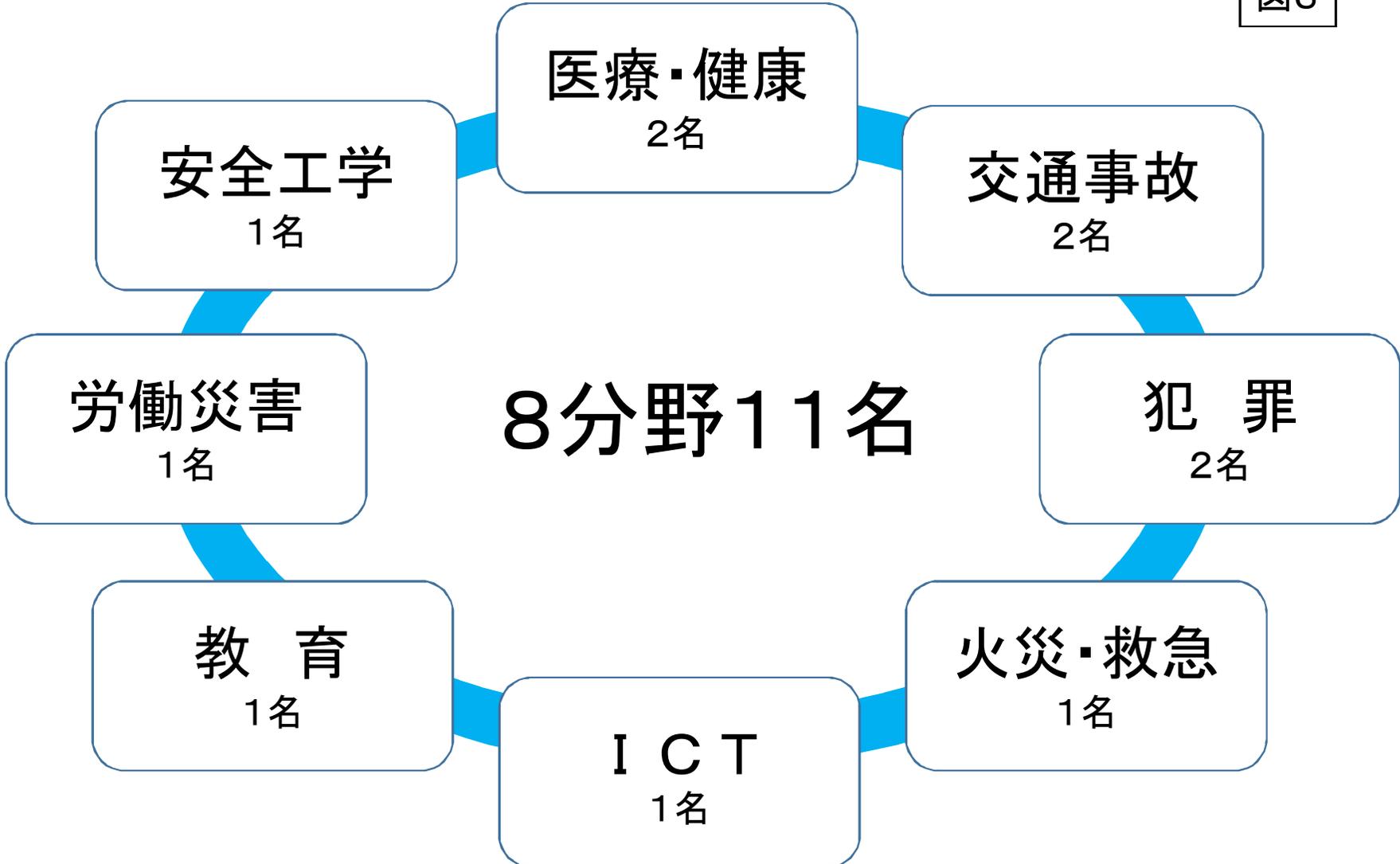
図2





3 外傷サーベイランス委員会の構成

図3

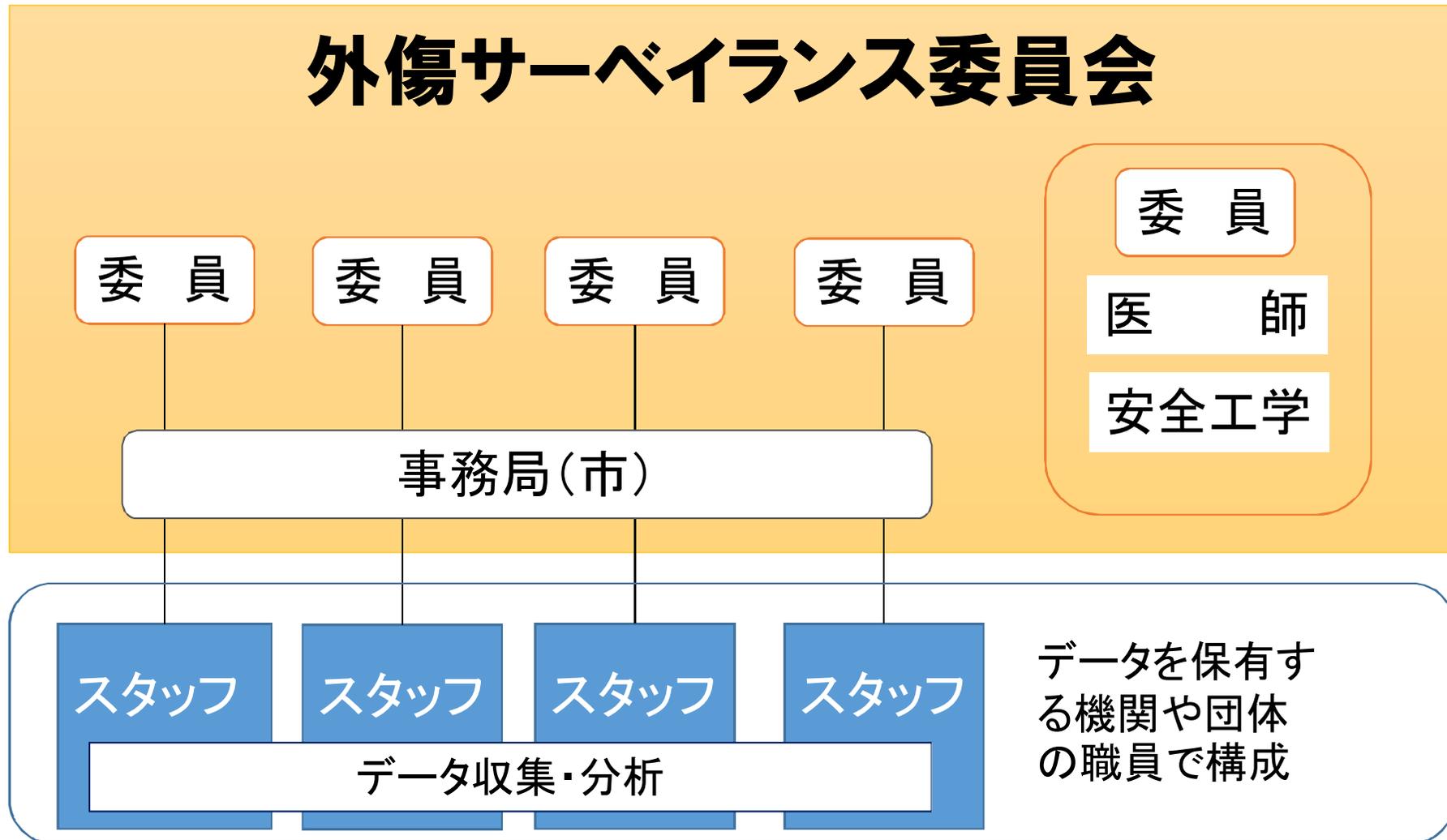




委員は個人として参加するだけではなく、配下のスタッフを指揮してデータ収集、分析を行います。

図4

外傷サーベイランス委員会





委員名簿

図5

◎委員長 ○副委員長

分野と所属			職名	氏名
1	医療・健康	郡山医師会	副会長	◎寺西 寧
2	安全工学	日本大学工学部	機械工学科教授	○西本 哲也
3	労働災害	郡山労働基準監督署	安全衛生課長	空閑 秀雄
4	交通事故	郡山警察署	交通第一課長	松崎 郁郎
5	犯罪	郡山警察署	生活安全課長	岩崎 良二
6	交通事故	郡山北警察署	交通課長	小幡 尚一
7	犯罪	郡山北警察署	生活安全課長	杉崎 俊秀
8	火災・救急	郡山消防本部	消防課長	吉田 和夫
9	ICT	郡山市	ソーシャルメディア推進課	植木 一雄
10	医療・健康	郡山市保健所	総務課長	佐久間 信博
11	教育	郡山市教育委員会	学校教育推進課長	原 真児

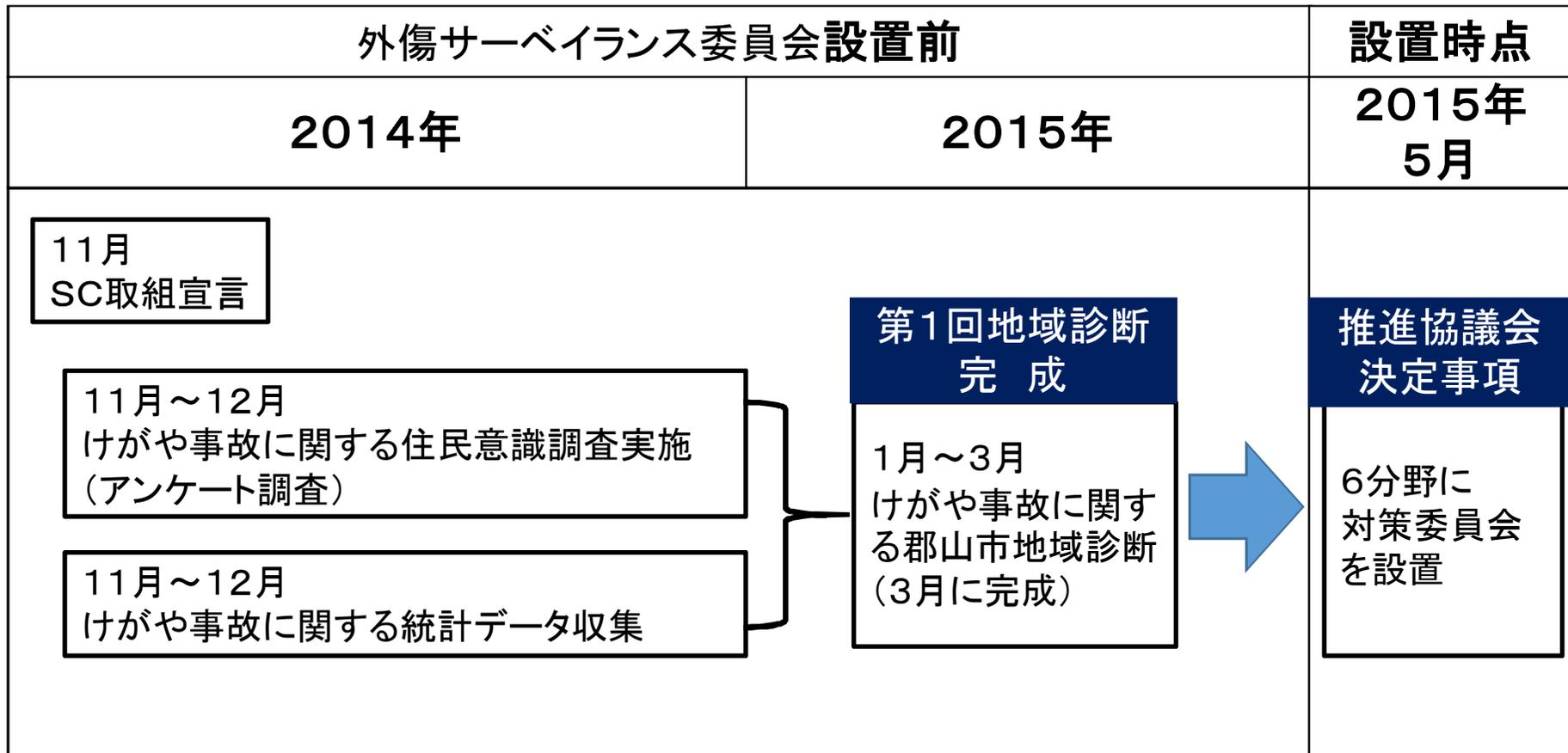


4 外傷サーベイランス委員会の活動

① 委員会設置前は、データ収集、分析を市の事務局が実施していた

外傷サーベイランス委員会が設置された時点で、既に第1回地域診断が完成し、6分野に対策委員会を設置することも決定されていました。

図6



② これまでの活動の概要

図7

回	年月日	主な内容
1	2015年 5月26日	<ul style="list-style-type: none"> ●セーフコミュニティについての研修 ●けがや事故等の地域診断結果を確認 ●対策を行う6つの分野の選定理由を確認
2	2016年 2月18日	<ul style="list-style-type: none"> ●各対策委員会が選定した重点課題をデータに基づき検証、データの不足等を助言 ●不足していたデータを対策委員会に提供 (後日、データがそろったものから順次提供した。)
3	2016年 8月18日	<ul style="list-style-type: none"> ●各対策委員会の具体的対策の検討状況確認 ●各対策委員会が必要としているデータの確認 (データが無いものは、市民アンケート実施を決定) ●第2回地域診断の実施方法を協議



③第1回 外傷サーベイランス委員会の活動 2015.5.26開催

図8

●セーフコミュニティ研修、けがや事故等の地域診断結果を確認

セーフコミュニティ研修を実施

講師 日本セーフコミュニティ推進機構 代表理事 白石 陽子 氏

地域診断結果を確認

統計データ
 交通事故・救急活動
 労働災害・各種相談
 等

市民意識調査
 (4000世帯にアンケート
 調査)
 事故の不安、市民活動
 参加状況 等

**統計処理
 分析**
 ・全国、福島県と
 の比較
 ・世代間の比較
 ・経年変化 等

**対策する
 6分野を決定**
 ①交通安全
 ②こどもの安全
 ③高齢者の安全
 ④自殺予防
 ⑤防犯
 ⑥防災・環境安全

公開
**対策委
 員会で
 活用**



図9

対策委員会で使用している主な外傷データとその更新頻度

更新頻度	統計等の名称	交通安全	子どもの安全	高齢者の安全	自殺予防	防犯	防災・環境安全
毎年	人口動態統計			●	●		
	労働災害件数						●
	自殺統計				●		
	警察統計	●				●	
	交通白書	●					
	地域安全白書					●	
	救急搬送データ	●	●	●	●	●	●



対策委員会で使用している外傷以外のデータとその更新頻度

図10

実施頻度	統計等の名称	交通安全	子どもの安全	高齢者の安全	自殺予防	防犯	防災・環境安全
毎月	違法客引き、スカウト調査					●	
毎年	高齢者支援事業実施状況			●			
	高齢者虐待等相談件数			●			
	児童虐待相談対応件数		●				
	配偶者等暴力相談件数					●	
隔年	市民意識アンケート調査	●	●	●	●	●	●

④ 第2回 外傷サーベイランス委員会の活動 2016.2.18開催

●各対策委員会が設定した重点課題をデータに基づき検証し、データの不足等を助言

図11

分野	助言内容
交通安全	<p>選定した重点課題のうち、「高校生の自転車事故が多い」について、全国のデータをもとにしていたことから、郡山市のデータで分析することを助言</p> <p>→ 後日、外傷サーベイランス委員会からデータを提供</p>
こどもの安全	<p>選定した重点課題のうち、「こどもの虐待が増加している」ことを示すデータがなかった。</p> <p>対策委員会に事情を確認したところ、次の状況が判明した。</p> <p>→ 相談窓口により統計のルール(記録方法)が異なる。</p> <p>→ 県や市に相談窓口があるが、管轄区域が一致しないため、単純合計ができない。</p> <p>今後の検討課題とした。</p>



⑤ 第2回以降に行った各対策委員会へのデータ提供 ※随時実施

●不足していたデータを対策委員会に提供

郡山市内の自転車事故発生状況 2012～2015

- 月別発生件数 ○曜日別発生件数 ○時間帯別発生件数
- 事故類型（追突、正面衝突、右左折時等）別発生件数
- 学年別件数 ○道路形状別（交差点、単路等）発生件数
- 法令違反別（信号無視、一時不停止等）発生件数



⑥ 第3回 外傷サーベイランス委員会の活動 2016.8.18開催

前回開催から半年を経過したため、進捗状況を把握するために開催
以下のとおり、新たに必要としているデータを把握

① 交通安全対策委員会

【自転車事故のヒヤリ、ハッと事例】

【自転車事故の発生状況別統計】

【高齢者の意識調査】

② 高齢者の安全対策委員会

【転倒による事故、けがの場所】

【不慮の窒息により救急搬送される方の家庭環境】

【不慮の窒息になった場所】



③ 自殺予防対策委員会

【救急搬送時のデータ】

【病院搬送時のデータ】

【自殺防止相談窓口の認知度】

④ 防犯対策委員会

【情報モラル等の認知度】

【客引き行為に対する意見等】

【防犯カメラに対する意見等】

⑤ 防災・環境安全対策委員会

【労働災害件数推移】

【業種別の労働災害発生件数の推移】

2016年秋に実施する第2回地域診断でアンケートを活用し、可能な範囲でデータ収集を行うことを決定した。

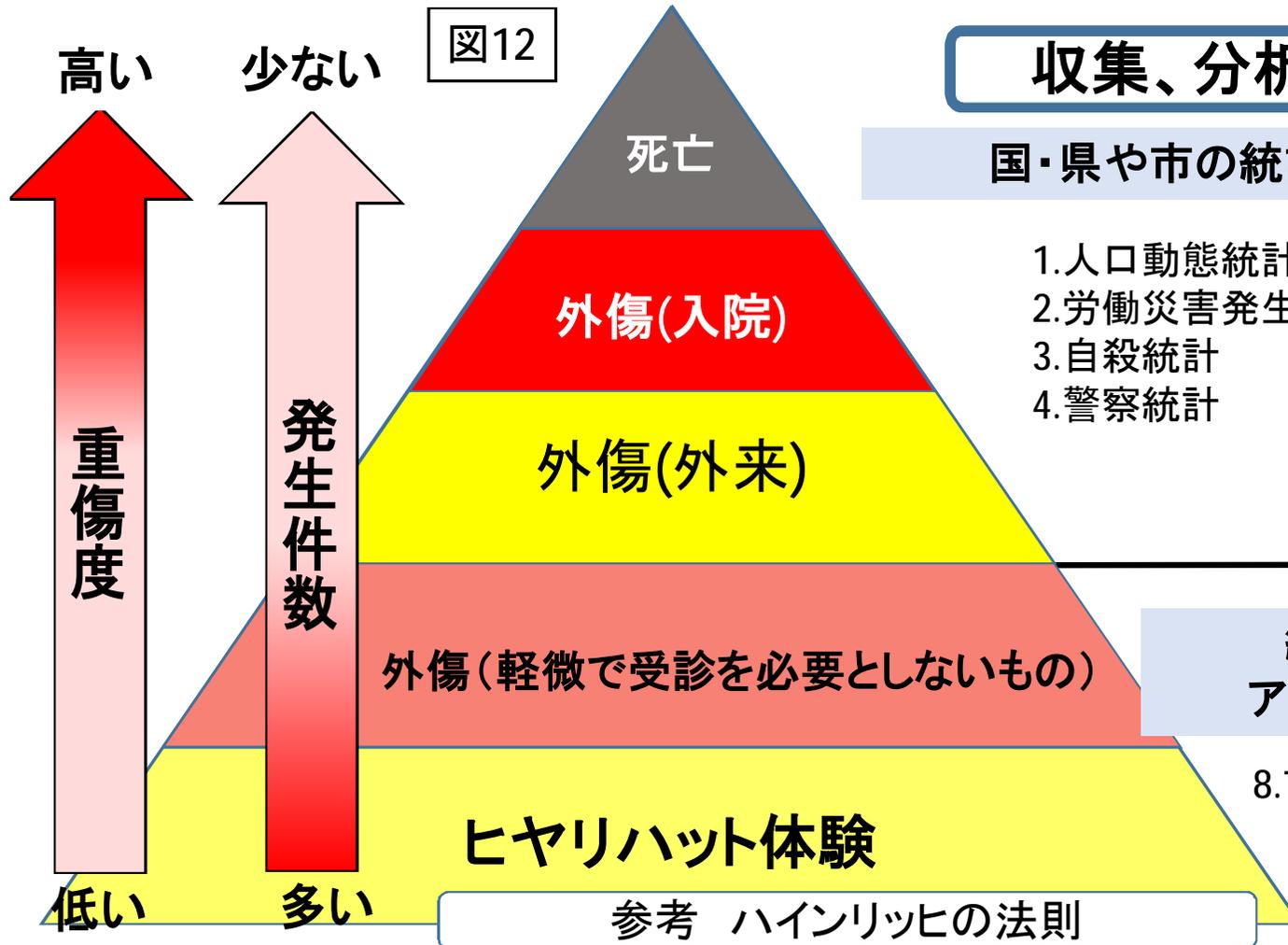


⑦ 第2回地域診断の実施

期間 2016.10～2017.3

隔年実施としている地域診断を実施中です。
けがや事故の背景にあるヒヤリハット経験や市民の意識も調査します。

図12



収集、分析するデータ

国・県や市の統計データで分析

- 1.人口動態統計
- 2.労働災害発生状況
- 3.自殺統計
- 4.警察統計
- 5.交通白書
- 6.地域安全白書
- 7.救急搬送データ

統計データがなく
アンケートにより調査

- 8.市民意識調査(アンケート)

参考 ハイリッヒの法則



⑦ 第2回地域診断の実施 2016.10～2017.3 ※現在進行中の取り組み

第2回地域診断のための市民意識調査(アンケート調査)

1 目的
公的な統計データ等では把握できないけがや事故、ヒヤリハット経験、住民の不安要素等を調査する。 ※前回の実施は2014年度

2 対象
郡山市住民基本台帳からの無作為抽出とし、4,000世帯及びその世帯の構成員約8,000名を対象とする。 ※前回と同じ条件

3 スケジュール		
2016年	9月～10月	アンケート依頼送付、回収期間
	11月～12月	結果入力、集計、分析
2017年	1月～2月	統計データと併せて地域診断実施
	3月	地域診断公開



⑦ 第2回地域診断の実施 2016.10～2017.3 ※現在進行中の取り組み

第2回地域診断のための市民意識調査(アンケート調査)

アンケートの内容 ※一部掲載

問4 自宅でけがをする心配がある場所はどこですか？(いくつでも選択)

1 心配な場所はない	2 庭、塀(へい)、堀(ほり)	3 玄関、門
4 駐車場	5 廊下	6 階段
7 居間、リビング	8 寝室、子ども部屋	9 台所
10 浴室、洗面所、トイレ	11 ベランダ	12 その他()

より具体的に
 前は、自宅内のどこ
 でけがをしたかの調査
 がなかった。

問15 他の人が運転する自転車に危険を感じた(または事故にあった)理由は何ですか？(いくつでも選択)

1 運転中の携帯電話使用	2 左側通行を守らない	3 信号無視
4 2台以上の並走	5 一時停止無視	6 スピードの出しすぎ
7 夜間ライト不点灯	8 運転中のヘッドホン使用	9 その他()

ヒヤリハット経験
 を調査
 事故にいたらなかった
 事例を調査

⑦ 第2回地域診断の実施 2016.10～2017.3 ※現在進行中の取り組み

アンケートの内容 ※一部掲載

問16 郡山市内にこどもの虐待に関する相談窓口があるのを知っていますか？（ひとつ選択）

- 1 知っている ⇒ 問17へ 2 知らない ⇒ 問19へ

対策委員会が必要とする調査項目を設定

問17 こどもの虐待に関する相談窓口で、知っている窓口はどれですか？（窓口ごとにひとつ選択）

相談窓口の名称		知っている	知らない
郡山市こども家庭相談センター	☎024-924-3341	1	2
福島県県中児童相談所	☎024-935-0611	1	2
児童相談所全国共通ダイヤル	☎189	1	2
子どもの人権110番	☎0120-007-110	1	2

相談窓口別の認知度も調査

問18 こどもの虐待に関する相談窓口をどの情報から知りましたか？（いくつでも選択）

1 チラシ、パンフレット	2 テレビ	3 郡山市ウェブサイト
4 福島県ウェブサイト	5 国のウェブサイト	6 インターネット上の情報
7 広報こおりやま	8 新聞	9 ラジオ
10 講習会、セミナー、学校等	11 その他()	

認知度に加えて認知手段も調査



5 今後の活動

① 第2回地域診断の完成 2017年3月に公表予定

② 各対策委員会が立案した具体的対策における成果指標、評価手法の検証



ご清聴ありがとうございます。

ご指導をお願いいたします。

外傷サーベイランス委員会